

グループ学習による電子メールの利用マナーの向上

谷岡 広樹^{*1}, 松浦 健二^{*1}, 上田 哲史^{*1}, 河野 文昭^{*2}

^{*1} 徳島大学情報センター

^{*2} 徳島大学大学院医歯薬学研究部

Report for Learning Email Etiquette in Group

Hiroki Tanioka^{*1}, Kenji Matsuura^{*1}, Tetsushi Ueta^{*1}, Fumiaki Kawano^{*1}

^{*1} Center for Administration of Information Technology, Tokushima University

^{*2} Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University

Recently, Social Networking Services (SNSs) are increasingly used in communication rather than Email mainly among the youth. Contact and inquiry by Email is still used for on business and university operating. Therefore, a lecture for increasing Email etiquette is conducted in a medical informatics to the first-year dental student. This report shows that group study is especially effective for improving Email etiquette.

キーワード: 研究会報告, 書式, 執筆要領

1. はじめに

近年, 若年層を中心に電子メールよりも SNS の利用が増加しているが, ビジネスや大学運営などでは, 連絡や問い合わせのために電子メールを利用することは避けて通れない. そこで, 歯学部 of 1 年生を対象とした授業において, 電子メールの利用マナーの向上を目的とした取り組みを実施した. その結果, 特にグループ学習によって, 利用マナーが向上することが明らかになったため報告する.

2. 医療情報処理の目標

2.1 カリキュラムと到達目標

医療情報処理では, 歯学部 of 1 年生を対象とした実習型の授業であり, 以下の 4 つの項目を到達目標とした講義と BYOD 環境での実習を行っている⁽¹⁾.

- 情報処理・医療情報の目的を述べる。
- 情報セキュリティの必要性を述べる。
- コンピュータを活用する。
- 医療分野における利用法を述べる。

受講生には, 将来, 医療分野において情報の意味を理解し, 使いこなすリテラシーの習得が求められる。

2.2 授業形態

必要最低限の知識を講義でインプットした後, 授業の時間内でパソコンを用いた実習を行うことにより, 知識の定着を促すワークショップ型の授業である. 4 月から 5 月は主に個人課題, 6 月から 7 月はグループ課題となるように授業設計した. さらに, レポート課題を課してアウトプットさせることにより, 知識の応用や理解を深めることを狙った.

受講生のモチベーションを維持するため, レポート課題に, 可能な限り個人ごとの関心や興味に応じたものとし, 採点は授業内容を理解し, 指示に従った内容のものであれば, 得点が得られるよう配慮した.

3. 電子メールの利用マナー

本授業の受講者について, スマートフォンの普及率は 100%であった. また, 総務省の調査報告⁽²⁾にもあるように, 10 代から 20 代の学生の SNS やメッセージの利用率は高い. このことから, オンラインのコミュニケーションに電子メールを利用する経験が少ないため, マナー違反といえる電子メールの送受信を行うと予想され, 早期に利用マナーを身につけることは, 大学生活に有益であろうと考えた.

表 1 電子メールの利用マナーの評価

年度	評価	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]	[12]
2017	A	13	8	44	46	42	38	40	36	43	29	31
	B	32	33	10	6	5	6	11	4	0	4	3
	C	16	16	3	0	4	1	0	4	2	0	1
	X	7	3	4	8	0	1	1	3	0	0	0
2018	A	31	30	42	37	43	46	37	28	33	59	36
	B	9	9	6	9	4	1	1	2	9	0	4
	C	16	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1
	X	3	0	3	1	0	1	0	0	1	0	0

以下のメールアドレスに 7/6 17:00 CEST までにメールを送りましょう。
tanioka.hiroki@tokushima-u.ac.jp

- 件名には、授業名と氏名を含むこと
- 本文には、新サービス開発チーム名を含めること
- 送信先のCCに、チームメンバー全員のアドレスを含めること
- 企画スライド(案)を提出してください
*作品はLMS(manaba)で「企画スライド2(案)」にファイルで提出してください。
*本文メールには、レポートの「タイトル」のみ追記してください。
*イタリア土産のリクエストも受け付けます。

※cメール(c123456789@tokushima-u.ac.jp)のみ、受け付けます。

- メール本文は、適切に改行して読みやすい本文にしましょう。
- 受信確認の返信メールをしますので、必ずご確認ください。

図 1 課題提出方法についての説明スライド

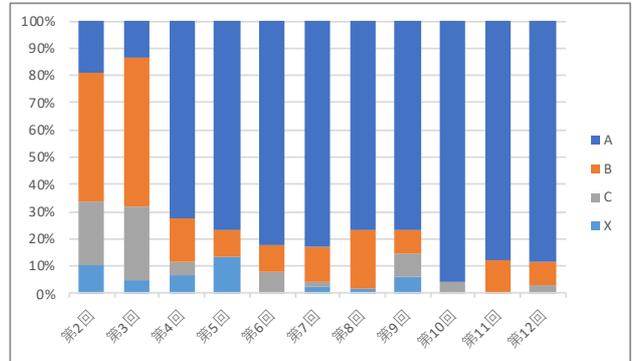


図 2 2017 年度の評価結果推移

3.1 電子メールの利用マナー向上のための施策

本授業では、レポートの提出時に、毎回必ず提出済みの連絡を電子メールで送信するよう義務付け、その電子メールの内容を評価、フィードバックすることとした。この施策は、2017年度と2018年度の2年間、全24回、ほぼ同様の規定と評価基準(A:問題なし, B:ほぼ問題なし, C:やや問題あり, X:問題あり)で行った。

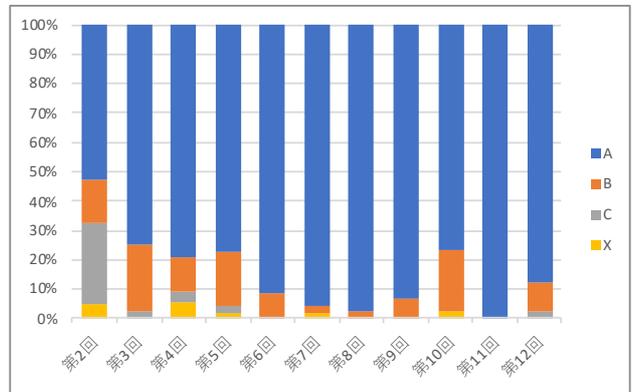


図 3 2018 年度の評価結果推移

3.2 電子メール利用マナーの評価結果

表 1 に 2017 年度及び 2018 年度の評価結果を示す。2017 年度は、第 2 回から第 8 回までは個人課題、第 9 回から第 12 回まではグループ課題である。2018 年度は、第 2 回から第 9 回までが個人課題、第 10 回から第 12 回までがグループ課題である。

図 2 と図 3 に、2017 年度と 2018 年度の評価結果の割合を図示する。2017 年度と 2018 年度のいずれも、回を重ねると徐々に評価結果は改善される。第 3 回または第 4 回までに評価 A が 7 割を超え、2017 年度は第 10 回に 95.6%，2018 年度は第 11 回に 100% の最高値に到達する。

これは、グループ課題に入った後、メールの送信手順が変更になり、いったん A 評価が約 76%まで低下した後に、チーム内で課題とメール内容が共有されたことが要因と考えられ、グループ学習⁽³⁾がドメイン固有のルールやマナーを習得する手段として高い効果を示す一例といえる。

4. おわりに

本稿では、電子メールの利用マナーの向上を目的とした取り組みを実施した結果、グループ課題に取り組むことによって、利用マナーが向上する事例を紹介した。今後、グループ学習を別タスクで試行した場合や、導入時期による効果の違いについても調査したい。

参考文献

- (1) 谷岡広樹, 松浦健二, 上田哲史, 河野文昭: “BYOD 環境によるワークショップ型実習の試みとその課題”, 大学教育カンファレンス in 徳島, 徳島 (2018)
- (2) 総務省: “情報通信白書平成 29 年版”, 第 1 部 第 1 節 (3) SNS がスマホ利用の中心に, <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/pdf/n1100000.pdf> (2018 年 9 月 26 日確認)
- (3) Cranton, P: “Types of group learning”, New Directions for Adult and Continuing Education, Volume 1996, Issue 71, pp. 25-32 (1996)